

C up ワールド

2002年7月号

2002年6月の山行記録

講習山行

ルートファインディングと友達になる会／

会津・田代山～尾瀬沼

6月1日～3日

参加者

遠藤末美・柴崎み子(本科生)
松浦寿治(講師) 計3名

コース・行程の概要

一日目: 会津高原駅集合(タクシー) →
帝釈山登山口～2033mピーク～
2000m付近(幕営)
二日目: 幕営地～2028mピーク～台倉高山?～
2033mピーク～帝釈山登山口～
帝釈山～田代山～ほどくぼ橋～
木賊温泉(タクシー) →会津高原駅

本山行のポイント

- ・ 的確なルートファインディングが要求される。
(藪尾根で倒木多くトレースに時間がかかる)
- ・ 少人数の為、各自軽量化をはかる。
- ・ 二日目の水の確保

感想

アクシデントで予定していた田代山に入山出来ず、会津から檜枝岐経由で帝釈山登山口にタクシーで向かう。長い林道は途中からダートに代わり、林道に残雪が見える頃登山口に到着。取り付きから笹藪で、前途多難?が予想される。北斜面の為か残雪が多く、冬山装備は皆無のためキックステップで登る。笹や倒木に覆われ、所々に赤テープが見られるが、セオリーを無視して尾根より下に付いている。地形図、高度計を駆使しながら2033mピークに到着。(木の上に赤旗で印があり)雨が降り始め、2000m付近でテント設営。講師の的確な判断で雨に濡れず

にテント設営も素早く出来、何事も経験に勝る物無しを実感。二日目、天気雨、午後雷雨?の予報あり、六時前に出発するも、倒木や笹で3～4m離れると先頭が見えず不安になる。悪天の影響と不明瞭な藪尾根の為、予定日に尾瀬に抜けるのは無理との判断(台倉高山)で撤退。帝釈山から田代山に変更する。帝釈山のピークに着く頃には、天候が回復して晴れ間も見え始め、田代湿原は人がまばらで「天上の湿原」のことばがピッタリ!木賊温泉に下山始めるが、エアリアで赤線の登山道も最近人が歩いた形跡無し、最後までルートファインディングの必要性を感じた山行でした。

報告者 柴崎み子



自主山行

葛葉川本谷(沢登り)

6月2日

参加者

渡部吉実(L)・吉国好道(SL)・茨木嘉道・長田幸子 計4名

天候・気温

曇りとときどき晴れ
平年並み

コース・行程の概要

8:30 秦野駅集合 (車)ー
9:30 葛葉の泉より 溯行開始ー 12:40 三ノ塔尾根着
ー 三ノ塔 ー 二ノ塔 ー 二ノ塔尾根 ー
14:30 葛葉の泉着 (車)ー 秦野駅

コースの核心 講習のポイント

F5板立の滝にて、残置ハーケンを利用したザイルワーク、立木からの支点の取り方の復習。滝の弱点を自分達の見極めで登り越えられるか。

感想

沢に入ってからルートファインディングは易しかったのですが、入渓する前に迷ってしまいました。本谷は木々が覆い被さり、全体に暗い感じでした。水量も梅雨入り前ということと、本谷の集水域の狭さもあってか少なく、ホールドもところどころヌルヌルで良くありませんでした。我々の力量にはうってつけの沢なのかなという感じでした。但し、全体に沢の幅が狭いので、急な増水、鉄砲水には注意すべき沢でした。

沢の詰めは三ノ塔尾根の杉林の仕事道が利用できて楽でした。

報告者 渡部吉実



講習山行

沢登りを楽しむ会／奥多摩・石津窪
6月9日

参加者

吉国好道・矢沢悦子・伊藤稔・横川秀樹・
末木俊之(本科生)
水上宏一郎(シニア)
小林英男(講師) 計7名

行程

武蔵五日市駅-(車)→盆掘川林道石津窪沢入渓点
→石津窪沢を25m大滝まで登る。
→同ルートを下降→盆掘川林道石津窪沢入渓点
-(車)→武蔵五日市駅

講習のポイント

次々に現れる滝、25mの大滝を登る。
短い沢のため、同ルートを降り、沢の下降技術も学ぶ。

感想

「次から次へと現れる滝、フィナーレの25mの滝は圧巻」という案内のPRを読んで急遽参加。講師の小林さんの、「下降ルートは余り変化がないので、沢を下降する。」という話を聞いて更に興味が増した。

市道沢出合いから数分で沢に入れるというのも大変魅力的で、冷たい水の感触を楽しみながら小滝5、6mの滝を登る。左に曲がってまもなく9mのスラブ滝が現れた。ちょっと足を滑らせてしまい滝壺にドボン!の方もいたが、ご愛嬌 間もなく小滝の連続を楽しむ。そして、いよいよ25mの大滝に到着した。ちょっと腹ごしらえをして挑戦。能率を上げるため、2班に分かれて登ることになった。吉国さんと水上さんがトップで登る。残置支点が落ち葉にかくれていたり安全かどうか点検したりで、下から見ていると大変なようである……。いよいよ順番に登ることになる。滝の水を避けるため、雨具を身につける。いざ登ってみると、ホールドやスタンスが多く見つけ、スムーズに登ることができた。帰りは2班に分かれて下りる。必要に応じて懸垂下降したり、水の中をジャブジャブ歩いたり……。ほとんどの人が、今年初の沢であったが、皆大満足で終わることができた。講師の小林さんからは、その場その場で適切な指導をしていただき、今後の沢・岩登りに大いに参考になった。

報告者: 伊藤稔



講習山行

奥多摩・カモシカ山行入門コース
6月15日~16日

参加者

中島和美・伊藤幸雄・山野昭人・山野美香・
柳澤栄一・浅子裕子・久野真由美・宮崎将人・
福田洋子・柴崎るみ子・日浅尚子(本科生)
渡辺智子・松井良和・岡田秀子(遠足)
岩本一郎(CU)
工藤寿人(講師) 計16名

行程

JR 青梅線 日向和田駅→日ノ出山(仮眠パーク)
→御嶽山→大岳山→鋸山→登計峠→JR 青梅線・奥多摩駅

6月15日(土): 日向和田駅集合(23:30) /
スタート(23:35)→

6月16日(日): →愛宕尾根分岐(1:20)→
日ノ出山(3:00) /
日ノ出山(5:20)→御嶽山(6:00)→
大岳山(8:42)→鋸山(10:35)→
JR 青梅線・奥多摩駅(13:40)

講習のポイント

- 夜間歩行訓練
- 総コースタイム8時間を、仮眠パークを含む行動時間約15時間で歩く、カモシカ山行の入門編

感想

総勢16名が、深閑とした夜の日向和田の舗装道路をゾロゾロと歩き始める。たまに行き交った人には、こんな夜中に・・と、ちょっとビックリされたかも。多勢に無勢でごめんなさい。

住宅地が途切れ、吉野梅郷の鳥居をくぐると山道なり、ヘッドライトをオン。梅雨の最中なのに幸い雨も無く、しかし、樹林帯の路は風も無くで、歩いていると、夜間ながらも結構暑かった。歩き始めて1本立てた所から、奥多摩の町の灯が樹間にチラチラと見える。まだこのあたりでは、下界の車の音がしっかりと聞こえる。

ハイキングルートとして、かなりしっかり整備されている路で、ヘッドライトの光でも歩き易かった。途中、小雨かな?と思っても、本降りになる気配も無く、知らない間に止んでいた。

愛宕尾根分岐/三宝山あたりに来ると、次第に眼が霞む(!)気がして、あれあれヤバイかな?と思っていたら、ガスがかかって来た為でした。(ほっ・・)立派な舗装林道を横切つて、ワンピッチで日ノ出山山頂。立派なあずまやがあり、そこで、仮眠パーク。

ベンチの上や軒下や、軒下からタープを張って頂いた下で、それぞれシートを敷いて・サーマレストマットを膨らませ・雨具などを着込んだりしてシュラフカバーに潜り込み、しばし仮眠。標高900メートル程の山頂で、しかも、さほど風も強くない状況

でしたが、さすがに気温が最低になる時間帯、何も着込んでいなければちょっと寒かったでしょう。横になってウトウト夢見ごちで約1時間、朝4時過ぎ、鳥の声がし始めたと思ったら、もうすっかり空は明るい。シュラフカバーからチョロっと覗くと、曇天で真っ白で全くの展望も無かった。鳥の声、最初は1種類だったのが、次第にいろいろな種類が増えてきて、最終的には5種類以上いたのではないのでしょうか?かまびすかしい野鳥の声で目が覚める、という、ある意味では贅沢な朝。

5時の起床後、パッキングしたり・朝食を放り込んだり・トイレに行ったり(とても立派だったそうです)、20分後には歩き始める。

日ノ出山から御嶽山までは、公園の遊歩道かと思われるような整備された道だった。

御嶽山神社から大岳山へ。杉林を抜けてからは、緑の広葉樹林帯の登り。湿度100%「かいた汗も蒸発しないね〜。」「サウナみたい。」しかし、湿気を含んだ緑は鮮やかでみずみずしく綺麗だった。大岳山荘のテラスで、ゆっくり休憩。ひと登りした大岳山山頂でも、ゆっくり休憩。相変わらずの曇天で、真っ白で何も展望無し。この時節の天気では、こんなものなのでしょう。

大岳山から鋸尾根へ。小さなアップダウンを繰り返すが、なかなか標高が落ちない尾根のようです。しかし、新緑/紅葉の時はプロムナードとなっていそうな樹相の尾根道で、楽しく歩きました。

一向に下る気配の無い道が、鋸山あたりから次第に下降。途中、小さな鎖場があり(巻き道あり)、やや逆層気味の岩場をわざわざ降りて、「皆が、こんなに鎖場好きとは知らなかったな〜。」と工藤講師に言わしめてしまいました。

ひたすら下降してやっと登計峠。集落からの立派な舗装路が上がってきているが、目の前の愛宕山/愛宕神社経由の方が、格段に奥多摩駅に早く至るので、気合を入れて最後の頑張り。

愛宕山/神社にはあつという間のひと登りでしたが、その後、180段くらいの急傾斜の階段下降。靴を「逆ハの字」にしないとみ出してしまうような狭い階段で、しかも上部は「逆層ぎみ」でした。ぼ〜んと道路に飛び出して、ここで解散。皆さん、おつかれさまでした。

夜間歩行、もっとくたびれるかと思っていたのですが、歩く道が想像以上にとても整備されたハイキングコースで、さほど疲れなかったので、夜間歩行には大変歩き易いルートだと思います。

また、少しの仮眠でも、結構元気に歩けるものなんだなあ、という事がわかりました。もっとも、更に歩き続けた場合、午後後半あたりにド〜んと疲れが来るのかもしれませんが。カモシカ山行入門編ながらも、良い経験が出来ました。

報告者: 久野真由美

△△△△△△△△△△△△△△

講習山行

沢登りを学ぶ会 / 丹沢・新茅ノ沢
6月23日

参加者

末木俊之・坂本由以・柳澤栄一・横川秀樹・浅子裕子・福田洋子・岡部悦子・茨木嘉道(本科生)
和田佳明(講師) 計9名

行程

小田急線渋谷駅8:20集合。車に分乗し鳥尾尾根登山口(新茅山荘前)の広場へ。
新茅山荘~新萱橋(入渓点)~新茅ノ沢~鳥尾山~鳥尾尾根~新茅山荘

講習のポイント

12mの大滝(大棚)でのシャワークライミング。

感想

天気は曇。朝の鳥尾山・三ノ塔方面はガスに包まれていた。

ガイドブックによれば、入渓点から鳥尾山山頂までの所要時間は2時間半。人数は10人なので、順調に行けば3時間半程度で山頂に着くものと予想して出発する。

序盤の7mの滝では、プルーヅックで確保しながら水流の左側を直登。その他ではザイルを出すこともなく、いくつかの小さな滝を順調に越え、12mの大滝までは快適に進む。

この大滝は「大棚」と呼ばれ、過去に何度か事故が

起きている新茅ノ沢の核心部。

和田講師がリードし我々本科生(とゲスト)が続こうとするが、これが続かない。途中で行き詰まって一旦降りたり、お助けひもで上から引き上げられたりと苦戦する人が出てきた。この日は水量が通常より多く難易度が上がっていたということもあって、結局、全員が大棚を通過するには2時間半近くを必要とした。和田講師からは、滝の途中で次の一手が見つからないときは、フリーにこだわらず、残置ハーケンにヌンチャクをかけ、それをつかんで登ったり、あるいはスリングをアブミがわりにするなど、A0やA1で早く上まで登るべきと教えられた。

大棚を越え沢を詰めていくと岩のもろいガレ場が続く、そこを注意深く抜けてガスに包まれた鳥尾山山頂に出た。所要時間は、結局5時間以上かかったと思うが、気持ちの良い達成感に満たされた。

報告者: 横川秀樹

△△△△△△△△△△△△△△

編集局から

今月号から上家さん・長田さんに替わりまして、末木が編集に携わっております。上家さん・長田さんお疲れさまでした。ありがとうございました!!

私も、とりあえず自主研修報告を中心に紙面を作製していきたいと思います。トレーニングメニューなどの講習山行報告も入れていきたいと思いますが、原稿依頼が講習終了後になってしまうので記憶が薄れてしまったり、技術講習の意味合いの強い、山行要素の少ない講習の場合、報告を記述し難く感じられるなどの理由で山行報告を書きにくい講習もあるように見受けられます。山野さんの作製されているホームページ『山の写真帳Ⅱ』でもいくつかの講習山行が詳しく報告されていますし、必ず全ての講習山行報告を載せる必要も無いようです。

本科生の皆様には、メールまたは手紙にてめばしい講習山行の山行報告依頼を出すつもりですが、原稿の督促はしないつもりです。山行報告を書きにくい場合には無理されなくても良いと考えます。その月

C-upワールド 2002年7月号

の山行報告は、翌月の15日くらいまでに私のところに届くようにお願いいたします。私は単純に、15日ころまでに集まった山行報告をまとめてC upワールド紙面を完成させるという感じで取り組んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。ご報告は無名山塾ホームページの山行報告入力フォームで送信されると自動的に編集局に登録されますのでご活用ください。みなさまのご協力をお願いします。

アドレス

C-UPワールド

<http://member.nifty.ne.jp/c-up/>

無名山塾 <http://www.sanjc.com>

山塾サポート RXL13656@nifty.ne.jp

Phone & Fax 03-3600-3570

iモード

<http://member.nifty.ne.jp/~c-up/i.htm>